

防災・減災に係る取組事例について

事例1 (泉南市)

平成30年台風21号

課題と今後の対応について

事例2 (熊取町)

「防災元年」の取り組み

平成30年台風21号

課題と今後の対応について

令和元年5月
泉南市

泉南市における被害の概況

(1) 人的被害について

15人(いずれも軽傷)

(2) 物的被害

- ① 公共施設(建物).....58件
- ② 公共施設(道路施設等)....76件
- ③ 農林水産業関係施設.....476件
- ④ 商工業関係施設.....7件
- ⑤ 民間の建物等の被害(H31年3月末時点のり災証明)
 - 全壊.....8件(すべて非住家)
 - 半壊.....10件(住家5件、非住家5)
 - 一部損壊....3,017件

泉南市立一丘中学校



樽井大苗代新家線



- 1、防災情報の住民への情報提供と伝達について
- 2、避難所の開設と運営について
- 3、支援物資の配布について
- 4、大規模停電対策について
- 5、停電に伴う断水(給水)対策について
- 6、災害ごみ処理対策について
- 7、り災証明の発行について
- 8、要支援者の安否確認について
- 9、ボランティアの受入れと派遣について
- 10、被災者住宅支援について
- 11、清掃事務組合における災害対策について

1、防災情報の市民への情報提供・伝達について

台風21号対応では、市民への防災情報（台風接近に対する注意喚起、避難準備情報、避難所の開設情報、食料・ブルーシート等の支援物資の配布、災害ごみの収集、その他災害対策に関する情報）の提供と伝達手段として、防災用広報システム及び広報車による拡声放送、大阪防災メール、緊急速報メール、市ウェブサイト、フェイスブック等を活用し、情報提供・伝達を行った。

《 問題となった事象 》窓口や電話、アンケート等により住民や職員から寄せられた声、意見など

- ①災害対策本部では、情報の整理と効果的な情報発信ができなかった。
- ②放送が聴こえない、聴き取りづらいとの苦情が多数。
- ③放送音声が反響や共鳴で聴き取りづらかった。
- ④広報車はゆっくりと巡回し、何回も放送してほしい。
- ⑤男性の声は聴き取りづらいとの意見多数。女性の声も聴き取りづらい。
- ⑥市ウェブサイトでの情報発信が遅れていた。
- ⑦緊急速報メールが緊急性の高くないと思われる情報発信にも利用されていた。

《 課題と今後の対応 》

①防災情報の収集、整理、発信体制の再検討

- ・災害対策本部における情報の流れについての再点検を行い、適切な情報発信が行える体制づくりに努める。

②市民への情報伝達手段の多様化と運用面での強化・充実

- ・市民に対する情報伝達手段の多様化に努める。
- ・防災無線放送について、電話で確認することができる電話案内サービスの導入。
- ・防災用広報システム、広報車、大阪防災メール、緊急速報メール、市ウェブサイト、フェイスブック等のより効果的な活用方法について再検討を行う。
- ・防災無線放送については、放送回数や放送音量の強弱、拡声子局のグルーピングにより音の反響や共鳴の低減に配慮した運用に努める。
- ・放送を実施する職員の習熟度アップ。
- ・広報車の巡回放送について、広報マニュアルを作成し、効果的な運用に努める。
- ・防災訓練や出前講座等の機会を通じ、市民への防災情報伝達手段の周知を図る。
- ・大阪防災メール登録者を増やすための啓発を強化、継続する。

2、避難所の開設と運営について

開設避難所	施設名	開設期間	避難者数
自主避難所	樽井公民館	9月4日9時～9月15日17時	51人
	信達公民館	9月7日17時～9月9日9時	4人
	西信達公民館	9月7日17時～9月9日9時	4人
	新家公民館	9月7日17時～9月9日9時	3人
	東信達老人集会場	9月7日17時～9月9日9時	16人
高潮避難所	西信達中学校体育館	9月4日10時25分～18時30分	48人
			合計126人

《問題となった事象》窓口や電話、アンケート等により住民や職員から寄せられた主な声、意見など

- ①避難した施設でも停電が発生、雨漏りもあり、不安な時間を過ごした。
- ②避難所開設が遅かった。
- ③長期間の停電により、避難者が多くなった。
- ④避難者への情報提供のため、避難所職員への情報提供も定期的に行ってほしい。
- ⑤ペット同伴での避難について問い合わせがあった。
- ⑥身体に障がいのある避難者へ支援が必要。
- ⑦充電のために避難所へ来る市民が多数いた。
- ⑧情報を得るためのテレビの設置を要望された。
- ⑨携帯電話の充電にあたり、コンセントの数が不足した。
- ⑩大規模停電が発生した場合は、通電、停電している公共施設を調査し、避難所や休憩場所、充電施設として活用できるかを判断する必要がある。
- ⑪避難所派遣職員の増員、ローテーション等の態勢強化が必要。
- ⑫避難の長期化に備えて、避難所の安全と快適性の確保に努める。

《 課題と今後の対応 》

①避難所開設と運営体制の再検討

- ・避難所運営サイクルについて再検討する。
- ・派遣職員に避難所運営マニュアル等の研修を行い、円滑な避難所運営に努める。
- ・定期的に避難所開設に係る訓練(机上、実働)を実施する。
- ・派遣職員への貸与物品についての再検討と定期点検を実施する。
- ・避難所を定期的に巡回し、情報の伝達及び収集に努める。
- ・避難者の健康管理・心理的ケアのため、保健師、精神保健福祉士等の職員の派遣体制を検討する。

②避難所の環境整備

- ・ポータブル自家発電機、照明器具、電源コードリール等の導入。
- ・避難所敷設シートの導入。
- ・食料、水等の備蓄物資の配置に係る検討及び施設管理者等との調整を図る。

3、支援物資の配布について

台風21号対応では、支援物資として、暴風により屋根等が被災した世帯を対象に、ブルーシート(約2,300枚)を配布した。また、停電及び断水により調理困難な世帯を対象に、備蓄食料(約6,900食)と備蓄水(約1,700本)を配布した。

ブルーシートの配布

- ・合計4回配布
- ・1、2回目は市役所本庁舎で約1,000枚
- ・3回目は地域協働として、区(町会)に対して約600枚
- ・4回目は文化ホール駐車場で整理券の配布・交換方式で650枚
- ・福祉部局対応分として50枚

備蓄食料、備蓄水の配布

- ・合計3回配布
- ・1、2回目は市役所本庁舎で約1,500人分(6,000食)
- ・3回目は停電により断水が続いていた高層集合住宅の180世帯(900食)

《 問題となった事象 》窓口や電話、アンケート等により住民や職員から寄せられた声、意見など

- ①配布方法についての再検討が必要。
- ②配布に関する情報が市民に平等に伝わっていない。
- ③高齢者等に行き届いていない。また、取りにいけない。
- ④配布は市役所だけでなく、複数か所してほしい。
- ⑤先着順では不公平。
- ⑥被害を受けていない市民がブルーシートを取りに来ていたという声を聞いた。
- ⑦配布場所では、交通渋滞や混乱が発生した。
- ⑧配布情報の職員への周知が十分でなく、市民対応に混乱が生じた。
- ⑨区や自治会による配布方法では、安否確認も可能となる。
- ⑩市が支援物資を配布することへの懸念。
- ⑪市民が災害備蓄に関心を持ち、実践してもらえるよう啓発する必要がある。

《 課題と今後の対応 》

① 支援物資の配布方法の再検討

- ・平等で効果的な配布情報の発信、伝達方法を検討する。
- ・市内の複数個所(施設)での配布が可能かどうか検討する。
 - ・要配慮者の方々にも支援物資が届くよう、健康福祉部局と協議・調整を行う。
- ・庁内放送、ネットワークを活用し、災害対応に関する情報の共有を図る。

② 家庭での災害用備蓄の普及と実践に向けた啓発

- ・災害対策用の家庭内備蓄の必要性と普及に向けた啓発を広報紙や市ウェブサイト、防災訓練や伝市メール講座等の機会を通じて行う。

ご清聴ありがとうございました

安全・安心のための来たるべき
災害への備え

熊取町

～「防災元年」の取り組み～



令和元年防災事業について

- 昨年の台風第21号の被害の教訓と課題
 - 台風はもとより、今後発生が予測される巨大地震やその他あらゆる災害にも対応できる強靱な体制が必要
- ① 「令和元年」を熊取町「防災元年」と位置づけ
 - ② 様々な防災・減災の取り組みにより、まち全体の防災力強化を推進



もって、住民の生命と財産を守ります！！

